

墨田区「小さな博物館」における館長意識の継続性と世代交代に関する研究

近藤研究室 0212024 西村洋子

1. 研究の背景

歴史散策・ウォーキングなどの個人旅行が、中高年齢層に受け入れられ、ブームとなっている。同時に、観光者の多様な興味に対応するべく、地域に埋もれた観光資源を読み解き、地域を訪れた観光者に解説するガイドやインタープリターといった役割を担う地域住民が必要とされ、地域住民のホスト化が進んでいる。

説田¹⁾はホスト＝「地域資源や歴史文化を来訪者に伝える役」であり、その中でもインタープリター型とパフォーマー型とがあると定義している。図1は、地域住民のホスト化の事例を類型化したものである。

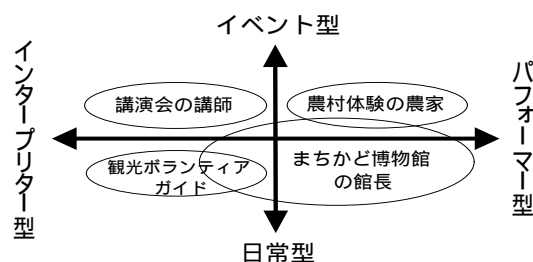


図1 ホストの役割形態

地域住民のホスト化の成功例として、まちかど博物館活動が注目され全国に広がっている。これは、市民が持つコレクションや技術・わざなどをその場に展示した小規模な博物館をネットワーク化したものである。

まちかど博物館は、その集客効果や準備の手軽さのみが魅力として捉えられ、十分に活動のコンセプトやPR、地域住民へのサポート体制が整えられないまま、活動に取り組む事例が増えるのではないかという懸念がある。

また、地域住民のホスト化において、多くの場合、地域住民の協力は、参加する地域住民のやりがいや成長と引き換えに無償で提供される。しかし、まちかど博物館の館長の場合、「ホスト」役と「生活者」役との二役が、従来の生活に支障をきたすこともあり、恒常的、かつ継続的な活動ならば、なおさら、その負担が増大する恐れがある。

まちかど博物館の可能性に関する今村らの研究²⁾によれば、まちかど博物館には3つの可能性「地域資源の保全・保存」・「学習の場」・「観光振興」がある。比較的、最近に開設された事例には、観光ニーズの多様化、団体旅行から個人旅行へと観光スタイルの変化に伴い、観光振興としても期待しているという特徴がある。

最近では、まちかど博物館に関心を持つ自治体に対

象に、事業化の手順を明確にした研究³⁾や、事業化する上での留意点や事業化による影響について述べた研究⁴⁾もある。しかし、継続的な運営をする上で考慮されるべき「館長」役の住民の負担や意識の変化、サポート体制など、個々の博物館の開設後の実態については、近藤の研究⁶⁾で開設から6年間の館長意識の形成過程を扱っているのみである。

2. 研究の目的と意義

本研究の目的は、継続的に活動しているまちかど博物館の事例を対象にまちかど博物館の継続性における要件を考察することで、今後、まちかど博物館に取り組んでいるもしくは取り組もうとしている自治体や市民団体に対してまちかど博物館の継続性における要件について提示することができる。

3. 研究対象

3-1 研究対象

墨田区の「小さな博物館」を研究対象とする。1986年に全国に先駆けて開設し、20年が経過している。また、1993年に近藤が行った研究のヒアリングデータがあり、このデータとの比較を行えば、個々の博物館の13年間の変化を読み取ることができる。

3-2 墨田区の概要

墨田区は、東京都23区の東に位置する、人口233,023人、面積13.75 km²の中小零細企業を中心とした住・工混在型都市である。製造業の割合が高く、下請けの性格が強いことが産業構造の特徴である。

中小零細企業の活性化などの産業振興策として提案されたのが本研究で対象とする「小さな博物館」を含む「3M運動」である。

3-3 「小さな博物館」の概要

区の産業経済課が「江戸時代から続く職人の町」として区内の中小企業活性化を図るため「3M運動(ミュージアム・マイスター・モデルショップ)」の一つとして、PR及び「職」への付加価値を高めるために進められた。なお、モデルショップは現在、工房ショップに改定されている。

区からの補助金として開設費(45万円まで)と運営費(月2万円)の助成制度がある。

4. 研究方法

4-1 調査方法

関連資料の収集

墨田区産業経済課に行き、関連資料を入手した。これらをもとに、「小さな博物館」の現状把握を行なった。

主催者へのヒアリング

主催者として、「小さな博物館」のこれまでの全体的な経緯と、現在のサポートや広報活動など運営面についてヒアリングを行った。（対応者：秋元晃一氏）

博物館の館長へのヒアリング

今回の調査では過去の調査のデータと比較するため、現在まで継続的な運営を行っている14館を対象にし、ぼって調査を行う。閉館した7館に関しては、閉館となった経緯を主催者に聞くこととする。

ヒアリング項目は、(1)博物館の運営上の変更点（館長交代・改修など）(2)来館者との交流について（印象に残った来館者・交流形態など）(3)生活や仕事への影響（トクしたこと・ソソったことなど）(4)墨田区のサポートについて（サポート内容・サポートに対する不満や評価）(5)今後の運営について（継続意志・次世代に関する考え）(6)館長のネットワークについて、とした。

新規の博物館へのヒアリング

小さな博物館の経緯を把握するために、1993年以降に開館した新規の博物館にヒアリングを行った。

表1 ヒアリング調査の日程

訪問日	時間帯	博物館名	調査
2005/10/14	09:10～10:20	羽子板資料館	
	13:30～14:30	乾燥木材工芸資料館	
	15:30～18:00	墨田区役所産業経済課	
2005/10/15	09:45～12:00	建築道具・木組資料館	
	13:20～14:10	木造建築資料館	
	15:30～18:30	古伊万里資料館	
2005/10/16	13:20～16:00	合金鋳物博物館	
2005/10/17	10:00～11:30	足袋資料館	
	13:00～14:30	軟式野球資料館	
	15:30～17:00	能面博物館	
2005/10/18	10:00～12:00	相撲写真資料館	
2005/11/14	15:30～18:00	屏風博物館	

4-2 分析方法

分析は以下の手順で行った。

開設から2005年までの時代背景の把握

各博物館の経過のまとめと分類

館長意識の継続性に関する分析

世代交代に関する分析

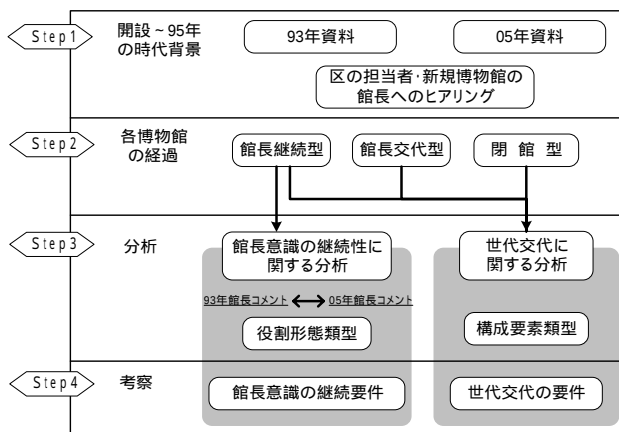


図2 分析の流れ

5. 調査結果

5-1 「小さな博物館」の時代変遷

「小さな博物館」運動のこの20年間の時代変遷と現在のシステムについて把握する。博物館の登録数の推移より、図3、図4のような時代区分を行った。

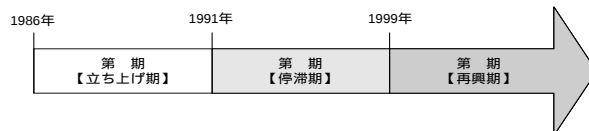


図3 「小さな博物館」の時代区分

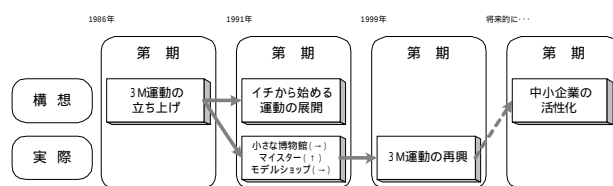


図4 3M運動の時代変遷

(1) 第1期（1986年～1990年）：立ち上げ期

立ち上げ期であった第1期は、3M運動の個別の「M」をスタートラインに並べるための期間であった。第1期の到達点は、「すみだ」への注目度が高まったということである⁶⁾。

(2) 第2期（1991年～1998年）：停滞期

第2期の構想は、第1期でスタートラインに並んだ個々の「M」をさらに育成することである⁷⁾。

しかし、実践段階において、その構想通りには3M運動を発展させることができなかった。その要因のひとつに1992年から1999年にかけての大幅な3M運動の予算削減があげられる。主な活動は「マイスター」運動に集中し、小さな博物館に関しては、設営補助と運営補助の制度は継続されたが、区としては活動の範囲を狭めなければならなくなり、停滞していた。

(3)第 期(1999 年～):再興期

第 期では、第 期の停滞期からの脱却を図るために「小さな博物館」「マイスター」「モデルショップ」それぞれに新しい取り組みが見られる。また、観光振興策としての特色が強まり、「小さな博物館」の観光施設化が進み、館長のホストとしてのホスピタリティの向上が求められるようになった。

5-2 「小さな博物館」のシステム

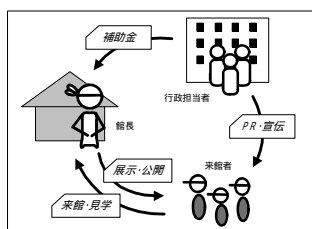


図5 「小さな博物館」のシステム

「小さな博物館」は、まず各博物館において展示が行われ、そこに訪れる来館者に向けて館長が説明をするという博物館側の動きと、区の担当者が金銭面の補助と、対外向けのPR、イベントの企画と運営、全体の方角付けをするという行政側の動きとがあって支えられている。

6. 各博物館の経過

1993 年に開館していた 23 館のその後の経過をまとめると、14 館は現在(2005 年)も継続中であり、5 館で館長の世代交代を経験していた。他の 9 館は会社の倒産や後継者不在等の理由で閉館していた。

表2 博物館の現状からみた分類

分類	該当する博物館
館長継続型	木造建築・古伊万里・羽子板・能面・べっ甲・木彫・相撲写真・建築道具
館長交代型	小林人形・乾燥木材・軟式野球・合金鋳物・金庫と鍵
閉館型	伝統木彫刻・タキナミ・硝子の本・石材・はんこ・ライター・千社札・ぶりき

館長継続型においては、館長それぞれに博物館に対する思い入れが多様化し、全体的に館長と来館者との交流形態における多様化が進んでいる。館長自身が楽しめる、またやりがいを感じることができる博物館が形成される中で、館長意識が形成、維持されてきたことが分かった。

各博物館の世代交代の経緯や閉館した博物館の中に、「館長意識の消失・低下」という理由によって世代交代や閉館をした事例がない。つまり、「小さな博物館」の場合、博物館の世代交代や閉館には、館長意識の継続よりも、展示物、館長の後継者、運営母体の存続の問題といった、館長にはどうすることもできない外部から受ける影響の方が関係しているということが分かった。

7. 「小さな博物館」の継続性に関する分析

7-1 館長意識の継続性に関する分析

館長意識の継続性を明らかにするために、20 年間、同じ館長が運営し続けている館長継続型の 9 館に焦点をあて、館長一代の期間における館長意識に注目し、先行研究で用いられた役割形態類型を用いて、分析を行った。役割形態類型は、博物館のもつ「歴史文化伝達」や「技術見学体験」など 5 つの役割の差異によって分類したものである。

表3 役割形態類型

分類	わざ単独	わざ関連	展示中心	展示販売	関連収集	趣味収集
博物館	能面	羽子板	相撲写真	べっ甲 足袋 木彫	木造建築 建築道具	古伊万里

役割形態類型の 6 類型のうち、館長の専門分野が職業関係と趣味関係と分類すると、「歴史文化伝達」をもつタイプと持たないタイプに分類できる。

表4 館長の専門分野の際による分類

館長専門	役割形態の違い	類型
職業関係	「歴史文化伝達」あり	わざ関連・展示中心 展示販売・関連収集
趣味関係	「歴史文化伝達」なし	わざ単独・趣味収集

【考察：館長の専門分野別にみた館長意識の傾向】 職業関係

- 館長の職業柄、歴史の「伝達」や製品の「普及」といった目的意識を持つ傾向にある。そのことによって、使命感を持って館長役を果たし、来館者との交流を通してその目的に対する達成感ややりがいを感じている館長が多い。
- このタイプの館長は、わざもしくはコレクションを歴史の流れの一部として継承してきた職人、あるいはコレクター。継承してきたわざやコレクション、及びそれに関連する歴史や文化を誰かに「伝えたい」とする外交的な意識が働き、博物館は館長が持つ情報の発信地としての役割を担っている。

趣味関係

- 職業関係のように「伝達」や「普及」を意識することなく、館長は個人の「楽しみ」や「満足」を重視する傾向にある。
- このタイプの館長は、わざやコレクションは、館長個人が習得あるいは所有するものなので、歴史や文化の伝承よりも、趣味を「共有したい」という内向的な意識が働き、博物館は来館者と館長とが趣味を共有するスペースとしての役割を担っている。

7-2 世代交代に関する分析

閉館せざるを得ない状況として、NTT プリキのおも

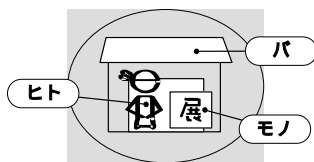


図6 博物館の構成要素

ち博物館のように、持ち主が展示物を回収する場合や、タキナミグラス博物館や石材資料館のように、会社が倒産する場合、硝子の本の博物館のように、人件

費が負担となる場合等が考えられる。つまり、館長(管理者)や展示物、運営母体の『存続』が「小さな博物館」の継続要件に関係する。

館長、展示物、運営母体は、博物館の構成要素は、「ヒト」・「モノ」・「バ」の3要素に該当する。この博物館の構成要素の差異から、4類型に分類でき、類型別に、世代交代の仕方について分析した。

表5 構成要素類型の各特性

		「ヒト」館長のキャラクター・「モノ」展示内容	
		わが・職人 (パフォーマー)	コレクション・コレクター (インタープリター)
個人・家族・自営 「バ」運営母体	個人・家族・自営	「ヒト」の引継ぎがポイント 「ヒト」は息子や娘、弟子が継ぐ 「バ」の存続率は高い	- 引き継ぎはあまり行われない - 一代限りが多い 「モノ」の引継ぎがポイント
	組織・組合・会社	「ヒト」の引継ぎがポイント 「バ」が「ヒト」を補完する 「バ」が存続する限り閉館なし	「モノ」は「バ」の所有物 「バ」が存続する限り閉館なし 「ヒト」の重要度は低い

8. 結論

「小さな博物館」の継続性の要件

時代背景との関連

今回ヒアリング調査の対象とした14館のうち、13館が第1期【立ち上げ期】に開館した博物館であり、＜試みるタイプ＞の館長である。第1期【停滞期】では、「小さな博物館」から「マイスター」活動へと区の政策の中心が移ったことで、結果的に、区の先導や支援を頼らず、各博物館において、館長の主体性や能動性、オリジナリティが創出された。

初期設定との関連

「小さな博物館」は、開設初期に慎重な設定を行っている。中でも、館長へ運営費として月に2万円の給付と、開館日や開館時間の自由度は、初期設定が館長の生活とのバランスにうまく影響を与えている。

館長意識の継続要件

館長の専門分野が、『職業』に関係する場合は、館長は来館者に対して、歴史文化の「伝達」や製品の「普

及」することを目的意識として持つ傾向にある。一方、『趣味』に関係する場合は、館長は純粋に来館者と趣味について共有し、共に「楽しみ」や「満足」を感じることを目的とする傾向にある。つまり、館長意識を継続させるためには、館長の目的意識を理解し、その目的の内容やレベルに合わせて、空間や来館者との交流形態を個別に作り上げていくことが重要である。

世代交代の要件

博物館の構成要素である「ヒト」・「モノ」・「バ」の3要素の差異より4類型に分類できる。個人/わが型は、「モノ」よりも「ヒト」の引継ぎが重要で、後継者となる息子や弟子が鍵を握っている。組織/わが型も、同様に、「ヒト」の引継ぎが重要である。しかし、「ヒト」を「バ」から補完することができ、「ヒト」の引継ぎには対応しやすい。個人/コレクション型は「ヒト」よりも「モノ」の引継ぎが重要である。館長の仕事に関係する「モノ」であれば、家族が引き継ぐことができるが、趣味に関係する「モノ」の場合は、館長一代限りで閉館することが多い。組織/コレクション型は、「モノ」が組織の所有物であることが多く、「バ」が存続する限り閉館する可能性は低い。

また、4類型上での移動が見られた。今後、個人での管理では限界があり、個人型から組織型へ移動したり、職人の死後、その職人の作品を展示することになれば、わが型からコレクション型へ移動したり、いろいろなパターンが考えられる。このように4類型上の移動をもっと活発に行えば、博物館の継続性はさらに高まると考えられる。業界や地域においてネットワークを作っていく必要がある。

【脚注・参考文献】

- 1) 説田寿:「ホスト」の成長過程とサポートシステムに関する研究-「南紀熊野体験博」体験リーダーを対象として-、滋賀県立大学環境科学研究科修士論文(2001)
- 2) 今村洋一,他:ミニ博物館ネットワークの事業化について、日本建築学会大会学術講演梗概集(東海),893-894(2003)
- 3) 今村洋一,北澤猛:まちかど博物館ネットワークの可能性、日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸),349-350(2002)
- 4) 今谷大志:店舗側と訪問者側への影響と要因に街かど博物館の特徴と課題-小田原市の街かど博物館事業を課題とした店舗性と博物館性からの考察-都市計画、<http://machine.net/daigaku/2003_imatani.pdf>2005-9-20
- 5) 前田博:余暇に留意した生活環境整備、都市計画,(183),32-36(1993)
- 6) 近藤隆二郎,盛岡通:ミニ博物館事業における「館長」意識の形成過程に関する研究-墨田区「小さな博物館」と伊勢市「まちかど博物館」-,日本都市計画学会学術研究論文集,703-708(1994)
- 7) 墨田区商工部産業経済課:新しいすみだ3Mキャンペーンの歩み、pp22-28(1992)